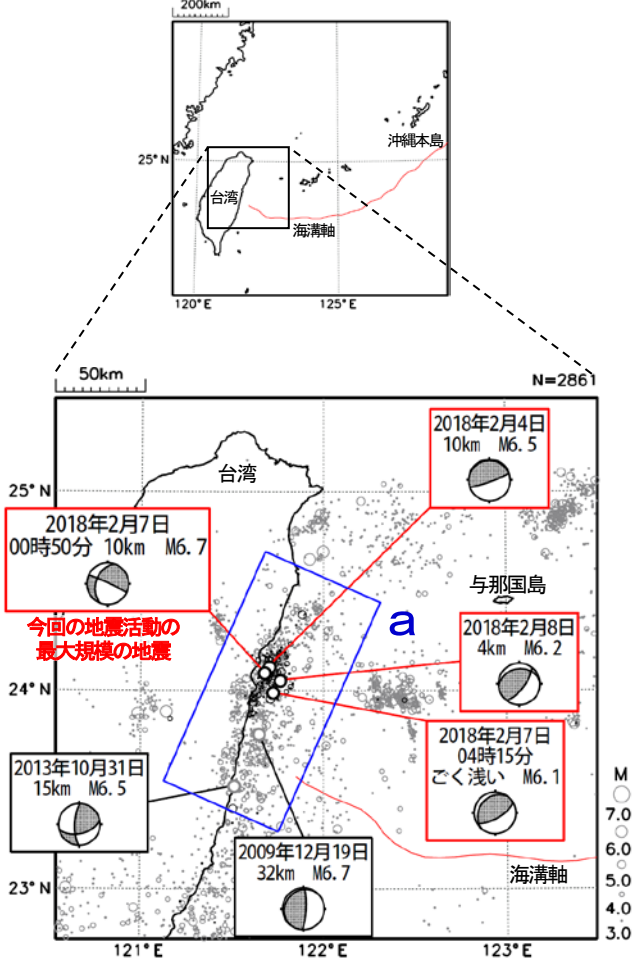


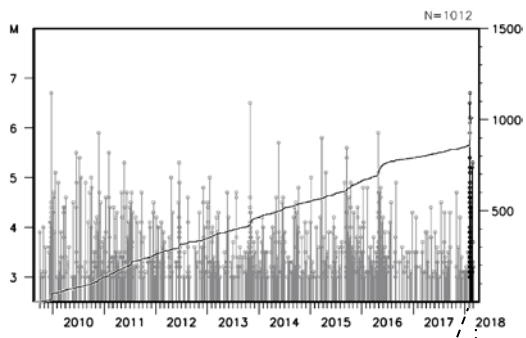
2月4日からの台湾付近の地震活動

震央分布図

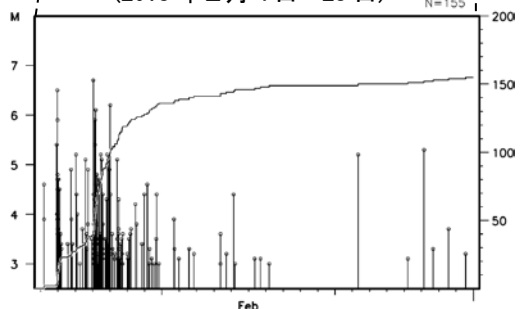
(2009年10月1日～2018年2月28日、
深さ0km～50km、 $M \geq 3.0$)
2018年2月以降の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解



領域 a 内の M-T 図及び回数積算図

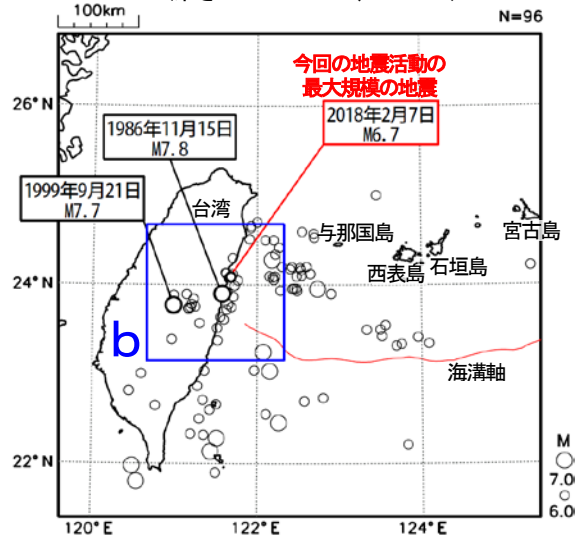


(2018年2月4日～28日)

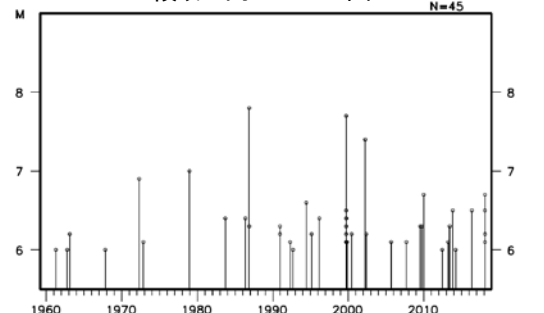


震央分布図

(1960年1月1日～2018年2月28日、
深さ0km～100km、 $M \geq 6.0$)



領域 b 内の M-T 図



2018年2月4日以降、台湾付近で地震活動が活発になっており、4日22時56分には、深さ10kmでM6.5の地震（日本国内で最大震度2）、7日00時50分には、深さ10kmでM6.7の地震（日本国内で最大震度2）が発生した。この地震の震央付近では、地震活動が活発な状態で推移しており、これらの地震を含め、M6.0以上の地震が4回発生している（2月28日現在）。そのうち規模の大きかった4日22時56分の地震と7日00時50分の地震の発震機構（CMT解）は、それぞれ北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型、南北方向に圧力軸を持つ型であった。今回の地震活動により、台湾で死者17人などの被害が生じた。

2009年10月以降の活動をみると、今回の活動域周辺（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生しており、2009年12月19日のM6.7の地震では、日本国内で最大震度3を観測している。

1960年1月以降の活動をみると、今回の地震活動周辺（領域b）では、1986年11月15日にM7.8の地震（日本国内で最大震度3）が発生し、台湾で死者13人、負傷者45人の被害が生じ、宮古島平良で30cmの津波を観測した（津波の高さは「験震時報第55巻」による）。また、1999年9月21日にM7.7の集集地震（日本国内で最大震度2）が発生し、台湾では死者2,413人、負傷者8,700人の被害が生じた。

※本資料中、2009年9月までの震源要素は米国地質調査所（USGS）による。2009年10月以降の震源要素は気象庁による。今回の地震の被害は、OCHA（国連人道問題調整事務所）による（2月28日現在）。その他の地震の被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による。気象庁作成